

やすらぎ通信

第8号 (平成23年7月1日) 発行：大阪府立急性期・総合医療センター

文月(七夕月)

たなばたさま

作詞 権藤はなよ 林柳波 作曲 下総皖一

- 1 ささの葉 さらさら
のきばにゆれる
おほしさま きらきら
きんぎん砂子 (すなご)
- 2 五しきの たんざく
わたしがかいた
おほしさま きらきら
空からみてる

(注)

五しき — 青・赤・黄・白・黒。古代中国の五行説の色。五行説とは、「木・火・土・金・水」の五元素によって、自然現象や人事現象の一切を解釈し、説明しようとする思想。

砂子 — 金銀の箔を細かい粉にしたもの。蒔絵、色紙、襖絵などに用いられる。

万代池の木々の緑も一段と深まり、季節がまた一つ進みました。愛染さんの祭りも始まりいよいよ大阪の夏がスタートしましたが、皆様方におかれましてはいかがお過ごしですか？

今月の歌は「たなばたさま」を取り上げました。

小さかった頃、色紙の短冊にいっぱい願い事を書いて、お祈りしたという思い出は皆さんお持ちじゃないでしょうか。また、短冊を付ける笹もその頃はまだまだ少し足を伸ばせば里山があつたりして、自然の笹を手に入れることもそう難しくはなかったような気がします。上を見上げれば、天には本当に「天の川」が流れているものと信じて、夜空のなかで、天の川や織姫星、夏彦星を探したものです。この七夕伝承は、こども心に無限の夢やロマンを育んでくれたような気がします。

ところで、この七夕は元来中国の行事であったものが奈良時代に日本に伝来し、元からあった棚機津女(たなばたつめ)の伝説と合わさってできた行事と言われています。また、七夕はお盆行事の一つとして古来行われてきて、明治6年の改暦までは、旧暦の7月の立秋以降の行事として行われていました。しかし、新暦への改暦により、新暦の7月に行われる地域と、仙台の七夕まつりのように旧暦の7月に行われる地域に分かれるようになったようです。また、旧暦の7月に七夕を行う地域は、北海道や東北など東日本に多く、西日本では新暦の7月に多く行われているようです。

この七夕とは一体何なのか、ここで、有名な織姫星と夏彦星の伝承に触れておきましょう。

中国・日本の七夕伝説では、織姫星(織女星)にはこと座の1等星ベガが当てられ、織姫は天帝の娘で、機織りの上手な娘とされています。他方、夏彦星(牽牛星)は、わし座のアルタイルが当てられ、夏彦も働きものであったため、天帝は二人の結婚を認めました。めでたく夫婦となった二人ですが、夫婦生活が楽しくて、いつしか、余り働かなくなってしまいました。天帝は、激怒し二人を引き離しましたが、年に1度だけ7月7日に会うことを許し、天の川にどこからともなくやってきたカササギが橋を架けて会うことができました。しかし、その日が雨ならば天の川が溢れ会うことができず、また来年の7月7日が来ることを待たなければならないという甘くも悲しいストーリーです。(「雨で水かさが増したとき、どこからともなくカササギがやってきて、天の川に自分の体で橋をかけてくれて会うことができた」という伝承もあるようですが、それなら、毎年会うことができますね。)

このような、大変ロマンチックなストーリーもあり、こども心にとっては大変メルヘンチックな夢のあるお話でした。なによりも、この七夕伝説により、子供たちの関心はいや

がおうにも天空に向かい、その後の多くの星座探しや宇宙の神秘探しのきっかけとなり、科学の心を養う上で大きな役割を果たしたのではないのでしょうか。

また、同時に七夕の行事は、こどもの世界にとって、楽しい夏の始まりを告げる行事でもありました。七夕の頃になると、心は、もう夏休みに飛んでいました。海水浴や川遊び、林間学校でのカブトムシやクワガタ取りなど野や山や海で夏を満喫—そうした夏休みのプランがぐっと間近に来た感じがしたものです。

夏休みの宿題、これがこどもにとって、必ず夏休み中にこなさなければ課題でした。しかし、当時はこの宿題もそれほど大きな負担にはならなかったような気がします。

大抵の小学校では、算数・国語などのドリル、作文、工作か標本づくり、この三点セットが最もポピュラーな宿題ではなかったのでしょうか。宿題の量も今のようにそんなに多くなく、本当に夏を堪能できました。9月の新学期には、どれだけ真っ黒な顔で先生やクラスの友人と再会するかが、夏休みの充実度、成果を自慢できるバロメーターになっていたように思います。そして、夏の遊びの成果として、ある子はプラモデルを完成させ、ある子は昆虫採集の標本を、また海で遊んだ子は拾い集めた貝殻で標本をとみんなそれぞれ持ち寄って、見せ合うというのが9月の新学期の風景でした。

現代のこどもたちが置かれている環境や状況と比較し一概に評価はできませんが、一つだけ言えることは、人と人がしっかりと結びつき、また人と自然とがいっぱい触れ合っていた時代、そうした環境のなかでこどもたちが、親だけでなく地域のおっちゃん、おばちゃんなどに見守られながら、伸びやかに育っていった時代ではなかったのでしょうか。

さて、当センターと相愛大学では、昨年大変好評を博しました連携シンポジウムを今年も是非開催したいということで、先月末から検討に入っています。

今回は、当センターと別途包括連携協定をむすんでおります森ノ宮医療大学にも加わっていただきます。テーマは昨年に引き続き、「生と死を、今考える（Ⅱ）」として、やはりがん医療を取り上げ、昨年の内容を深めていきたいと思っております。どのようなシンポジウムになるのか是非楽しみにお待ちしております。

広報は9月から行う予定で、このやすらぎ通信でもお知らせいたします。

それでは、今月のお知らせをはじめましょう。

【**新**】 皮膚良性色素性疾患用の最新式のレーザー装置が導入されました

—形成外科—

4月から、従来使用していましたQスイッチ付きアレキサンドライトレーザーに代わり、最新式のQスイッチ付きルビーレーザーを導入いたしました。

対象疾患は、Qスイッチ付きアレキサンドライトレーザーとほぼ同じですが、従来保険適用であった太田母斑、異所性蒙古斑、外傷性色素沈着に加え、以前から治療要望の多かった扁平母斑も保険適用になりました。

また、保険適用はありませんが、一般に「しみ」と呼ばれる色素班の中でも老人性色素班等（肝斑は効果はありません）はこのレーザーに良い適応があります。

お気軽にご相談ください。

なお、レーザー治療は毎週月曜日の午前中に行っていますが、完全予約制となっており、事前に一度当科外来をご受診のうえで、予約を取っていただき、専門医の診察・治療をお受けいただくこととなります。

【**甲状腺外科の専門治療を開始しました** — 耳鼻咽喉・頭頸部外科—】

4月から甲状腺外科の診療を充実させました。甲状腺腫瘍はもとより、バゼドウ病の亜全摘手術／全摘手術／RI 内服療法、良性腫瘍手術、高度の慢性甲状腺（橋本病）の外科的治療、甲状腺悪性リンパ腫の診断、治療を行っております。

バゼドウ病に対する抗甲状腺薬の内服治療、軽度慢性甲状腺炎や腺腫様甲状腺腫などの経過観察は、当センターでは治療の待ち時間等を考慮させていただいて、「連携しているかかりつけ医」や「近隣の甲状腺専門クリニック」をご紹介させていただいております。

専門診療には、必要に応じて、日本甲状腺学会専門医、日本頭頸部がん学会専門医、がん治療認定医、日本核医学学会専門医の資格をもった医師が担当します。

甲状腺疾患でお困りの場合は、ご遠慮なく当センターの専門診療をご受診ください。

かかりつけ医をお持ちの場合は、そのかかりつけ医に地域予約（紹介状つき）を取っていただくことにより、円滑にご受診いただけますのでよろしくお願ひします。

【**診察予約変更センター設置—6月から11の診療科において診察の予約日・時間の変更が電話でできるようになりました！**】

当センターでは、6月から11診療科を対象に、電話で診察時間の予約の変更ができる

よう「診察予約変更センター」を設置しました。

これは、当センターが進めています「患者さんにとって利便性の高い病院づくり」の一環として導入整備したもので、急な用事や体調変化で予約された日時に診察のために来院できなくなった場合に、電話で日時の変更ができるサービスをご提供するものです。

予約変更を電話でできるのは、以下の診療科です。是非、積極的にご活用ください。

なお、このサービスは初診に関しは行っておりませんので、ご注意くださいようお願いいたします。

(電話番号) 06-6692-1201 (代表)にダイヤルして「予約変更センター」と言ってください。

(受付時間) 午後3時～午後5時(平日のみ)

(対象診療科) 内科・呼吸器内科 消化器内科 糖尿病代謝内科 整形外科
免疫リウマチ科 皮膚科 形成外科 腎臓・高血圧内科
神経内科 脳神経外科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

【入院治療費の概算を予めお知らせすることを始めました】

昨年度実施しました患者満足度調査におきましては、入院時にいくら程度医療費がかかるか事前に教えてほしいというお声が多く寄せられました。

このため、当センターにおきましては、入院患者さんへのサポートを総合的・集約的に行う入院センター（やすらぎセンター）を5月から整備したことに合わせまして、ご入院申し込み時に予め標準的な治療を行った場合の概算費用をお知らせするサービスを開始しました。

お知らせの方法は、当面、患者さんにお渡しする「患者さん用クリティカルパス(治療計画書)」の中に記載してお知らせする診療科と、口頭でお知らせする診療科に分かれますが、最終的にクリティカルパスに記載する方法に統一をすることになっています。

【**新** 当センター22年度決算 13億1千万円の黒字—3年連続の黒字を達成】

当センターにおきましては、病院が府の経営を離れ独立行政法人の経営に移管された平成18年度以降、大胆な経営改善努力を続けてまいりました。その結果、20年度決算におきまして初めて3億7千万円の黒字に転換することに成功し、さらに経営努力を持続した結果、21年度決算においては10億円の大黒字を達成しました。

22年度は診療報酬の改定もあり、最終的に概算で引き続いて13億1千万円の大黒字

を達成する見込みとなりました。

当センターにおきましては、これら経営改善の成果を、医療機器・設備への投資、医療スタッフの増員、患者さんの満足度向上のための投資等に振り向けることにより、医療サービスの質の向上に取り組んでおります。

今後とも、安定した経営基盤のもとでよりよい医療をご提供し、皆様方のご期待に添えてまいりたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

今月の催し

【大好評！！】

相愛大学連携・外来糖尿病教室～知って得する！糖尿病の付き合いかた～】

日 時 7月27日(水) 15:00～16:30

場 所 1階エントランス 入院(やすらぎ)センター

糖尿病の基本や、食事の話など盛り沢山です！

1 「血糖と血圧のコントロールで腎臓を守りましょう」

糖尿病代謝内科主任部長 馬屋原 豊

2 「糖尿病の飲み薬について」

薬剤師 的場 美香

3 塩分の話

糖尿病療養指導士(管理栄養士) 笠井 香織

相愛大学人間発達学部栄養発達学科学生による「サッとシステム」を使用した食事診断も開催します。また、希望者には血糖値測定を行います。(参加費無料)

【今月のすこやかセミナー】(参加費無料)

① **新** 頭頸部がん診療の最前線

日時 7月14日(木) 午後2時～3時

場所 3階保健教室

講師 耳鼻咽喉・頭頸部外科 主任部長 坂田 義治

② **新** きれいなお口で歯ッピーライフ ー要介護者のための口腔ケアー

日時 7月22日(金) 午前11時～12時

場所 3階保健教室

講師 障がい者歯科 主任部長 樂木 正実
角谷 久美代

【現代美術空間—病院ギャラリー 第4回企画展—開催】

⑨ 「やすらぎの木版作家—浅野竹二

初期情景版画展—新・京名所と新・大阪風景」

日時 平成23年12月22日（木）まで

場所 本館2階ギャラリー

浅野竹二は、1900年京都生まれ。京都市立絵画専門学校で日本画を学んだ後、油絵を始めますが、再び日本画を描き始め、日本画家として活躍します。1930年頃からは、木版画の制作を始め、写実的な「名所絵版画」を制作する一方で、自由に自分の感性を表現した『創作版画』を制作し、大胆なフォルムと色彩で構成されたユーモア溢れる作品を発表しました。

今回の企画展では、このような浅野竹二の作品の中で、初期（1930年代初め）の作品の「名所絵版画」の中から新・京名所と新・大阪風景を取り上げました。

なお、本作品展は、大阪府立現代美術センターのご協力で開催しております。

【⑨ 第1回やすらぎ寄席—特別落語会】

三代目 桂 春団治—門 落語会

日時 7月27日（水） 午後2時～

場所 本館3階講堂

出演 桂 梅団治 桂 福丸

（主催） 万代やすらぎ亭

（ご協力） 「三代目 桂 春団治師匠を囲む会」

先着150名（定員超過の方は院内テレビ観覧）

入場無料

【⑨ 予告：第2回やすらぎ寄席—落語の会】

日時 9月26日（月） 午後2時～

場所 本館3階講堂

出演 若手中堅落語家 桂 かい枝

主催 万代やすらぎ亭

入場無料

【**新**】 予告：第3回やすらぎ寄席—講談の会】

日時 11月29日（火）午後2時～

場所 本館3階講堂

出演 女流若手講談師 旭堂 小二三

主催 万代やすらぎ亭

入場無料

Topics

【23年度機器整備でPET-CTを導入！】

がん診療の拠点病院として、がんの診断機能を一層強化することを目的に、23年度の医療機器の整備の一環としてPET-CTを導入することになりました。

整備時期は、年度後半になる予定ですが、詳細が決まり次第、本通信でもお知らせいたします。

【**新**】 新名所：やすらぎのプロムナード—北側通路周辺—】

当センターでは、「やすらぎの医療空間」づくりの一つとして本館と中央館の連絡通路から北側に伸びた通路周辺の緑地の再整備を行いました。6月末現在、新緑の美しい緑とアジサイの鮮やかな青紫で格好のやすらぎを体感できる空間となっています。

ベンチには多くの患者さんやご来院の方々が腰を下ろされ、ゆったりとくつろぎのひとときを過ごしておられます。

是非、ご来院の折には、お立ち寄りください。

今月のドアマン

【**新**】 今月のメッセージ】

今月は、コンシェルジュに代わり、ドアマンからのメッセージをお届けします。

ドアマンは、当センターの玄関前で制服を着て、進入出車両の円滑な誘導、乗り降り

される患者さんやご家族の安全の確保や乗降時のお手伝いを主にさせていただいております。患者さんがタクシーにご乗車されようとする際には、玄関前までタクシーを誘導いたしますので、お気軽にお声がけください。

また、タクシーや救急車以外の一般車両も、外側レーンではなく玄関に最も近い内側レーンに入り横付けして降車していただけます。安全確保のためにもお気軽にお声がけくだされば、誘導させていただきます。

その他のお知らせ

【やすらぎ通信はメルマガで！】

「やすらぎ通信」は、メルマガでも配信しております。ご希望の方は、当センターホームページからアドレスを登録していただきますようお願いいたします。

なお、ホームページのご検索は、「大阪府立急性期・総合医療センター」にて可能です。

【医療費の支払いはキャッシュカードでできます！】

当センターの医療費自動精算機は、デビットカード対応となっておりますので、ほとんどの金融機関のキャッシュカードでお支払いができます。これらの金融機関はJ-Debitに加盟していますので、キャッシュカードに自動的にデビット機能が付与されているからです。（ただし、キャッシュカードでお支払いいただいた場合は即座に口座から引き落とされることとなるため、口座に引き落とし金額以上の残高が必要ですのでご注意ください。）このため、医療費の支払いのための現金を持たなくても、キャッシュカードさえあればお支払いが可能です。

また、引き落としの手数料は不要ですので大変便利です。是非ご利用ください。

なお、合わせて一般のクレジットカードでのお支払いもできます。

当センターは、院内が

「希望の医療空間」「よろこびの医療空間」「やすらぎの医療空間」

となるよう日々努力します。